

団 体 名	NPO法人 環境生態工学研究所													
代 表 者	理事長 須藤 隆一													
所 在 地	宮城県仙台市若林区新寺 1-5-26-104													
事 業 内 容	<p>「震災被害を受けた南三陸町・伊里前地区 夢のある自然共存型の地域社会づくり」</p> <p>1. 目的 東日本大震災による津波被害は、各地に大きな爪痕を残しており、宮城県本吉郡南三陸町においても豊かな環境の象徴であった流入河川、干潟や藻場等の沿岸部の環境に大きなダメージを与えた。 本活動は、平成25年度及び26年度に地域住民や県外の高校生等との協働により、南三陸町・伊里前地区をモデルケースとして実施してきた。活動から得られる成果としては、本地域における被災後の防潮堤やインフラ整備等の復興計画に関して、生態工学的見地から現況を把握し、地域の自然共生型社会の構築や持続利用可能な地域づくりのために必要な資料の作成を目的として実施してきた。</p> <p>2. 活動の2年間の成果 平成25年度及び26年度の活動による主要な成果は以下に示すとおりである。</p> <p>①伊里前川河口付近には、環境省及び宮城県版レッドデータリストの記載されている絶滅危惧種など非常に貴重な魚類の生息が確認された。</p> <p>②早稲田大学本庄高等学院の生徒及び教職員(約20人)と地元の被災にあった漁民等との情報交換を活発に行うことができた。</p> <p>③本活動により抽出した環境配慮事項については、視点を変えれば貴重な環境資源であり、観光資源として位置付けられるものである。これらの環境資源を貴重な地域資産として位置付け、「自然共存型の漁業水産業」、「環境、生活習慣の付加価値の見直し」等とを総合的に考えることにより、「夢のある自然共存型の地域社会」を目指す活動のスタートすることができた。</p> <p>3. 活動の内容 本活動は、宮城県南三陸町歌津地区において平成25年及び平成26年に実施し、本年度で3年目を迎える。本年度の活動内容は、「震災被災地の現地見学会」、「震災からの復興セミナー」及び「河川の生物現地調査」を実施する。 (注)平成25年度の活動については、「貴法人 水環境保全助成事業」のご助成をいただいて実施した。</p> <p>(1) 活動への参加者 本活動は、特定非営利活動法人 環境生態工学研究所(以下、E-TECと略す。)が主催し、南三陸町・伊里前地区の地域住民、宮</p>	<p>城県外からの早稲田大学本庄高等学院の生徒及びE-TEC会員等が約30名程度が参加を予定している。</p> <p>(2) 活動計画 主要な活動計画は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動の区分</th> <th>日程等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>震災被災地の現地見学会</td> <td>8月1日、北上川河口 大川小学校及び周辺の見学</td> </tr> <tr> <td>震災からの復興セミナー</td> <td>8月2日、南三陸町地元住民(語り部等)との情報交換セミナー</td> </tr> <tr> <td>河川の生物現地調査</td> <td>8月2日、南三陸町伊里前川における投網、タモ網、トラップ等を使用した魚類調査の実施。成果をもとにした専門家からの講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>河川の生物現地調査は、南三陸町・伊里前地区の流入河川を対象として実施する。現地における活動時期は、生物活動がもっとも盛んになる夏季・平成25年8月、1回とする。</p> <p>(3) 現地調査の対象項目 現地調査は、陸域及び沿岸海域を対象として、以下の区分について実施する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地域</th> <th>調査内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陸域・伊里前川</td> <td>①水質 pH、COD、T-N、PO4-P、透視度、色相、臭気等 ②魚類</td> </tr> </tbody> </table>	活動の区分	日程等	震災被災地の現地見学会	8月1日、北上川河口 大川小学校及び周辺の見学	震災からの復興セミナー	8月2日、南三陸町地元住民(語り部等)との情報交換セミナー	河川の生物現地調査	8月2日、南三陸町伊里前川における投網、タモ網、トラップ等を使用した魚類調査の実施。成果をもとにした専門家からの講義	調査地域	調査内容	陸域・伊里前川	①水質 pH、COD、T-N、PO4-P、透視度、色相、臭気等 ②魚類
活動の区分	日程等													
震災被災地の現地見学会	8月1日、北上川河口 大川小学校及び周辺の見学													
震災からの復興セミナー	8月2日、南三陸町地元住民(語り部等)との情報交換セミナー													
河川の生物現地調査	8月2日、南三陸町伊里前川における投網、タモ網、トラップ等を使用した魚類調査の実施。成果をもとにした専門家からの講義													
調査地域	調査内容													
陸域・伊里前川	①水質 pH、COD、T-N、PO4-P、透視度、色相、臭気等 ②魚類													
事業実施期間	平成 27.7 ~ 27.10													
事業実施場所	宮城県本吉郡南三陸町													
事業総額	302,600円													
助成金額	151,300円													

団 体 名	美しい山形・最上川フォーラム	
代 表 者	会長 柴田 洋雄	
所 在 地	山形県山形市緑町 1-9-30 緑町会館	
事 業 内 容	<p>「身近な川や水辺の健康診断」</p> <p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を平成14年度から毎年実施。水のごりや富栄養化(窒素・リン)の問題への理解と関心を高める。 ・簡単な水質調査キットを使って調べる活動を通じて、河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。 ・調査結果はホームページや報告資料で公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。 <p>2. 内容</p> <p>(1) 参加グループ数：100グループ、調査地点250地点を想定</p> <p>(2) 調査の実施期間：6月6日(土)～6月14日(日)</p> <p>※学校の授業・部活動等で実施する場合、6月6日(土)～7月31日(金)</p> <p>参加者は、期間内で都合の良い目時に希望の場所にて調査活動を行う。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>①パケットテスト6項目(パケットテストや調査マニュアル等は当フォーラムが提供。)</p> <p>(pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン)</p> <p>②川の概要(水温、川幅、水深等)</p> <p>③1メートル透視度計による透視度測定(貸し出しを行う)</p> <p>④水辺環境の目視調査(自然植生、泡立ち、散乱ごみ等)</p> <p>⑤水生生物調査(主催：山形県環境科学研究センター)</p> <p>※調査を希望する団体のみ最上川フォーラムを通して申込み可能とする。</p> <p>⑥公定法調査実施機関に対して、大腸菌群数調査も合わせて依頼</p> <p>(4) 調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施グループより6月19日(※学校関係は、8月7日)まで報告書を提出してもらい、データを集計する。 ・調査結果を総合的に分かりやすく表すために、各調査項目を得点化し、清流指標「水辺診断書」(五角形によるレーダーチャート)を作成し評価。 ・ホームページにて結果を公表すると共に、年度末に作成する報告書に記載。 	<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パケットテストによる調査にあわせて、一般財団法人理化学分析センター、株式会社理研分析センター、一般社団法人山形県水質保全協会ほか環境分析関係事業所の協力を得て、同一地点において公定法調査も実施し、パケットテストの精度の参考としている。 ・上記環境分析関係事業所からは、初めて参加するグループ等へ現地調査サポートの協力をうけ、専門的な分野から水環境に対する啓蒙活動も行う。 ・水環境向上活動をしている団体の成果を発表する「もがみかわ水環境発表会」を11月に開催し、成果発表の場を設けている。また、水環境向上へ向けた具体的な活動を実施し、長年調査に参加している団体は「美しい水辺づくり功労賞」として表彰。
事業実施期間	平成 27.4 ～ 28.3	
事業実施場所	山形県内全域	
事業総額	578,000円	
助成金額	200,000円	

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	清流くるみ会	みなみから届ける環づくり会議
代 表 者	代表 鈴木 武雄	議長 大田 直友
所 在 地	福島県福島市山口字馬場屋敷 11	徳島県阿南市領家町野神 319
事 業 内 容	<p>水環境施設（ビオトープ、水車等）への入り口門設置事業</p> <p>1. 目的 清流くるみ会は阿武隈川に流れている胡桃川を「里山を流れ、様々な生き物が生息している豊かな川を甦らせたい」という地元青年会有志の声をきっかけに、平成 7 年の川のごみ拾い、葦の刈り取りから活動開始した。その後は、魚道の陳情、地元小学校の授業、ハヤの放流、ビオトープ造り、水車の設置、東屋の建設と幅広い活動をして、平成 26 年の「環境保全功労賞」を受賞しました。</p> <p>2. 内容 ビオトープ及び水車・東屋は近年イノシシの被害が甚大となり、近隣の水田は「電柵」により農作物への被害を防いでいる。清流くるみ会の上記施設もその電柵に囲まれた場所にあり、その出入りが不便であり、子供たちも簡単に入れない。よって誰でも簡単に入りができる門を設置したい。その門も、様々な賞をいただいた施設にふさわしい日本的な情緒のあるものにし、水環境の優れた当施設で、ビオトープの生物の観察等の憩いの場所としたい。</p>	<p>地域の河川調査、水浄化施設の見学、水の浄化実験等を通しての環境保全学習</p> <p>1. 目的 本団体「みなみから届ける環づくり会議」は、徳島県の南部圏域の環境問題を掘り下げて考え、その解決方法を「提案」、「実行する」、産学官の協働体であり、今年度、徳島県南部圏域の河川における水質一斉調査の実施を予定している。 この調査では、大きな河川のみならず、支流から用水路まで幅広く対象とし、その場で生活する一般市民自ら、水質調査を行ってもらい、水環境に関心をもってもらうことを目的としている。</p> <p>2. 内容 徳島県南部圏域にある那賀川、桑野川、打樋川、海部川等の河川における水質一斉調査を平成 27 年 8 月に実施予定です。この調査では、大きな河川のみならず、支流から用水路まで幅広く対象とし、その場で生活する一般市民に水質調査を行ってもらい、現在の水質環境をマップし、水環境に関心をもってもらうことを目的としています。今から 7 年前にも同様の調査を実施しており、前回の調査との比較、さらに未だ水質汚濁が改善されない地域の洗い出しからその対応策の検討を行う予定です。</p> <p>6月 水質調査の実施を広報 7月 調査参加者に対する講習会実施 8月 水質一斉調査 8月～9月 調査結果とりまとめ 10月～11月 調査結果をもとに水質環境をマップ 12月 マップ等調査結果の広報</p> <p>期待する効果 水環境に関心をもってもらうことにより、環境リーダーが育成されるとともに、地域における水環境保全が図られる。</p> <p>対象者（見込み数） 一般市民（児童を含む。） 300人</p>
事業実施期間	平成 27.8 ～ 27.12	平成 27.4 ～ 27.12
事業実施場所	福島県福島市山口	徳島県南部地域
事業総額	400,000円	200,000円
助成金額	200,000円	100,000円

団 体 名	快適な生活環境を守る会	加藤学園高等学校 化学部
代 表 者	松本 明弘	海野 徑
所 在 地	静岡県藤枝市稲川 440-3	静岡県沼津市大岡自由が丘 1 9 7 9
事 業 内 容	<p>小学生を対象とした「水環境教育」、「浄化槽普及啓発」事業の実施</p> <p>1. 目的 小学校に出向き、4年生児童を対象とした水についての環境教育を計画しました。一般家庭で使われた水はどのようにして川に流され、自然へと返っていくかという水環境についての知識を習得し、水の大切さを学んでもらうことを目的とします。</p> <p>2. 内容 (1) 水の学習コーナー (2) 浄化槽のミニチュアモデルコーナー (3) 小型合併処理浄化槽の実物大カットモデルコーナー (4) 浄化槽ビデオコーナー (5) 浄化槽カルタ大会</p>	<p>河川の水質調査と水質浄化のための無機材料の開発</p> <p>1. 水質調査 沼津市内の主要 1 2 河川について、生活排水に関わる有機汚濁・窒素とリン関連イオンの分析。 2. 水処理材 産業廃棄物を利用した水処理剤の開発と効果の検証。 3. 水辺の写真コンクール 水は生命の源泉である。身近な自然環境を大切にするため、第 1 9 回の水辺の写真コンクールを実施する。 4. 沼津市の水環境展(沼津市の水環境と浄化槽の現状)開催</p>
事業実施期間	27. 6 ~ 27. 10 (8月は除く)	平成 27. 4. 1~28. 3. 31
事業実施場所	<p>【牧之原市実施予定校】9校 ①学校組合立牧之原小学校 児童 1 9 名 ②牧之原市立川崎小学校 児童 6 6 名 ③牧之原市立細江小学校 児童 8 1 名 ④牧之原市立勝間田小学校 児童 2 5 名 ⑤牧之原市立坂部小学校 児童 1 4 名 ⑥牧之原市相良小学校 児童 9 6 名 ⑦牧之原市片浜小学校 児童 6 名 (4・5年生複式学級) ⑧牧之原市菅山小学校 児童 1 8 名 ⑨牧之原市地頭方小学校 児童 4 5 名</p> <p>【島田市実施予定校】9校 ①島田市立金谷小学校 ②島田市立五和小学校 ③島田市立島田第一小学校 ④島田市立第三小学校 ⑤島田市立島田第四小学校 ⑥島田市立六合東小学校 ⑦島田市立初倉南小学校 ⑧島田市立川根小学校 ⑨島田市立相賀小学校</p>	加藤学園高等学校
事業総額	5 7 1, 1 7 2 円	5 1 9, 4 7 2 円
助成金額	2 0 0, 0 0 0 円	2 0 0, 0 0 0 円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	上林川を美しくする会	全国水源の里連絡協議会
代 表 者	会長 川端 勇夫	会長・綾部市長 山崎 善也
所 在 地	京都府綾部市野田町須知山 110-10	京都府綾部市若竹町 8 番地の 1
事 業 内 容	<p>上林川を調べて・知って、守り育てる活動事業</p> <p>1. 目的 京都府内有数の清流として知られる上林川は、近年生活排水の流入などにより、水質の悪化が懸念されている。「上林川を美しくする会」は、上林川流域の住民、市民、行政の協働により設立され、上林川に清流をよみがえらせ、次世代に引き継ぐことを目的とし、継続して活動を実施している。</p> <p>2. 内容 ①上林川の水質等の調査分析、水生生物の調査を実施し、上林川の現在の状態を把握する。 ②一般市民の協力、参加も得て、上林川流域のヨシ刈り作業や清掃活動を実施することにより、上林川の景観の美化を図る。 ③会報等で積極的に上林川の情報を発信するとともに、水環境保全の啓発を行う。</p>	<p>情報誌「水の源」発行事業</p> <p>1. 目的 「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念のもと、水源の里地域における振興と水環境等の保全に取り組む全国の自治体が連携し、水源の里振興の理念を国民運動として広げていく。</p> <p>2. 内容 森林や水環境保全に大きな役割を果たす水源の里地域の情報発信、交流、連携を図るため、情報誌を発行する。</p> <p>※名 称 「水の源」 (みずのみなもと)</p> <p>※目 的 ①水源の里の理念を全国に展開していく。 ②集落の情報を全国に発信していく。 ③下流(都市部)の皆さんの理解と協力を求めるとともに、交流を推進する。</p> <p>※発 刊 年 4 回</p> <p>※部 数 3,000 部/回</p>
事業実施期間	平成 27.5 ~ 28.3.31	平成 27.8 ~ 28.3
事業実施場所	綾部市市内	全国
事業総額	796,560円	1,180,200円
助成金額	200,000円	200,000円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(公社) 北海道浄化槽協会	(公社) 宮城県生活環境事業協会
代 表 者	会長 丹羽 道正	会長 佐藤 佑
所 在 地	北海道札幌市豊平区平岸五条 7-7-10	宮城県仙台市宮城野区日の出町 2-5-15
事 業 内 容	<p>浄化槽啓発用ポスター及び標語の募集並びにポスターの制作</p> <p>道内在住の小・中学生を対象とした浄化槽に関する啓発用ポスターを募集するとともに、優秀作品を環境パネル展等で公表・掲示する。また、併せて標語についても、年齢制限をせずに募集する。</p> <p>入選したポスターの 1 作品及び標語の 1 作品については、啓発用のポスター及びクリアファイルとして作成し、広く道内の自治体や会員企業等を通して浄化槽の普及啓発を行う。</p> <p>なお、ポスター等募集にあたっては、浄化槽の説明資料を添付し、多くの道民に浄化槽を知る機会と参加を誘導する。</p>	<p>環境フェア等への参加にともなう普及啓発活動</p> <p>県内の市町村で開催される環境フェア及び産業まつり等のイベントに参加して、広く県民に浄化槽による水質保全の利点を啓発し、水辺の環境保全の必要性をアピールするもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 顕微鏡による微生物の観察 浄化槽カットモデル、ミニチュア等による汚水処理方法の説明 ターポリン幕・パネルによる浄化槽や水質保全の解説 パンフレット等の配布を行う予定
事業実施期間	平成 27. 4. 1 ~ 28. 1. 30	平成 27. 9 ~ 27. 11
事業実施場所	北海道庁 1 階ロビー	仙台市、登米市、大崎市、蔵王町等
事業総額	470,813円	291,600円
助成金額	125,600円	91,562円

（一社）全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業（審査ベース）」

団 体 名	（公社）茨城県水質保全協会	（一社）群馬県浄化槽協会
代 表 者	理事長 安斉 猛男	会長 小倉 喜八郎
所 在 地	茨城県水戸市吉沢町 650-1	群馬県前橋市大友町 2-29-21
事 業 内 容	<p>「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり 2015」「茨城町環境フェスティバル」「2015 環境展・消費生活展」開催に伴う浄化槽の啓蒙活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 浄化槽の模型展示 2. 浄化槽普及啓発パンフレットの配布 3. 浄化槽に関するパネル展示 4. 生活排水に関するクイズの実施 5. 水を汚さない為の工夫のチラシ配布 6. 浄化槽紙芝居の実演 	<p>身近な河川水質調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 本調査は、地域住民の生活に身近な河川、水路等（以下、「身近な河川」という。）の水質を長期継続して測定することにより、浄化槽の設置推進が生活排水対策として効果的であり、公共用水域の水質の保全もしくは改善に寄与することを実証するために行う。 調査の結果は、「環境森林フェスティバル」及び「水よみがえれ！キャンペーン」等の場において発表する。 2. 内容 <ol style="list-style-type: none"> ①選定 <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽整備事業（「市町村設置型」・「個人設置型」）実施の市町村に関係する身近な河川を原則とし、当該市町村の整備計画等をあらかじめ把握し参考とする。 ・群馬県が環境白書に発表した環境基準未達成河川に流入する身近な河川を対象とする。 ・家庭雑排水等以外の汚染源（豚房、工場等）がある身近な河川は対象としない。 ②調査対象（身近な河川）の数 <ul style="list-style-type: none"> ・24以内（12地域 各2川） ③調査の方法等 <ul style="list-style-type: none"> ・採水箇所は、1河川につき、汚染に関する生活区域を想定（以下、「一定区域」という。）し、上流部下流部1箇所ずつとし、定点とする。 ・定点における採水及びその分析は、年1回とし、当面平成21年度より10年間継続する。 ・水質分析項目は、生物化学的酸素要求量（以下、「BOD」という。）とする。 ・採水は、「採水記録票」に必要事項を記入する。 ・当該一定区域内の浄化槽等（単独：合併：くみ取り）の設置状況の変化の把握に努める。 ・採水作業は、当該一定区域に関係する当協会の維持管理部会員もしくはその従業員が行う。 ④水質結果の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・環境基準値を参考とする。 ・群馬県環境白書に発表されている河川の水質結果を参考とする。 ⑤その他 <ul style="list-style-type: none"> ・水質の分析は、計量証明事業場に委託して行う。 ・試料は直ちに保冷し分析機関に搬入する。
事業実施期間	平成 27. 8. 29、平成 27. 10 月予定、平成 27. 11 月予定	平成 27. 7. 1 ～ 28. 2. 29
事業実施場所	霞ヶ浦環境科学センター、茨城町涸沼自然公園、カシマスポーツスタジアム	群馬県内
事業総額	260,000円	402,100円
助成金額	81,640円	125,600円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(公社) 富山県浄化槽協会	(一社) 静岡県浄化槽協会
代 表 者	会長 上田 勝朗	理事長 加藤 敬規
所 在 地	富山県富山市総曲輪 2-1-3	静岡県静岡市駿河区中田本町 2-10 A101
事 業 内 容	<p>「こども環境教室」の開催、「とやま環境フェア 2015」への出展に伴う浄化槽の普及啓発</p> <p>1. 目的 富山県は名水の県(環境省選定全国最多の県)であり、合併処理浄化槽の普及が遅れている地域等の小学校において「こども環境教室」を開催するほか、県や市町村主催の「環境フェア」に出展することにより、富山県の優れた水環境の保全に寄与する。</p> <p>2. 内容 (1) 環境教育 小学校4年生を対象にした「こども環境教室」の開催クイズを取り入れたパワーポイント「トイレの水はどこに流れるの?」を使って、水の大切さ、水を汚さないこと、汚水の浄化方法等について説明するほか、浄化槽の下敷きやミニチュアモデルを用いた浄化槽の仕組みについて学習する。</p> <p>【実施予定学校数】 小矢部市内の小学校ほか 5校程度</p> <p>【教材】 1) パワーポイント「トイレの水はどこに流れるの?」 2) 浄化槽ミニチュアモデル 3) 下敷き(食べ物と水の汚れ、浄化槽のしくみ、浄化槽で働く微生物など)</p> <p>(2) 浄化槽の普及啓発 富山県や市町村が主催する「環境フェア」等に出展 1) 浄化槽ミニチュアモデルの展示と解説 2) 浄化槽普及啓発資材の配布 3) 浄化槽に関するパネル展示と解説 4) 生活排水に関するクイズの実施</p> <p>【実施予定日】 ・富山県主催「とやま環境フェア2015」(平成27年10月17日(土)、18日(日)) ・市町村主催 黒部市、滑川市など(昨年8月～10月頃)</p>	<p>「静岡県住まい博 2015」出展に伴う浄化槽の普及啓発</p> <p>1. 目的 「静岡県住まい博 2015」を開催し、県民の皆様へ最新で良質な幅広い住まいの情報を提供し、豊かさを実感できる住生活の実現を図るとともに、住宅需要を喚起して住宅産業・住宅関連産業の振興を図っていきたいと考えております。 暮らし全般ブースに出展し、県民の皆様へ浄化槽についての正しい知識を普及啓発することにより、県民の健康保護と水環境の保全を図る。</p> <p>2. 内容 (1) 小型合併処理浄化槽の実物大カットモデル及び浄化槽のミニチュアモデルの展示 (2) 浄化槽に関するパネルの展示 (3) 浄化槽普及啓発パンフレットの配布 (4) 浄化槽に関する相談コーナーの配置</p>
事業実施期間	平成 27. 4. 1 ～ 28. 3. 31	平成 27. 9. 19 ～ 27. 9. 21
事業実施場所	富山県内の小学校、県・市町村の関連施設 (3会場)	ツインメッセ静岡・南館
事業総額	305,272円	578,200円
助成金額	152,636円	125,600円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(一社) 兵庫県水質保全センター
代 表 者	会長 谷口 正
所 在 地	兵庫県神戸市中央区港島南町 3-3-8
事 業 内 容	<p>環境教育・浄化槽普及啓発パンフレットの印刷</p> <p>小中学生を対象に「生活排水」と「水の循環」をテーマとした河川での水質分析を行う環境教育を実施する。健全な水循環や公共用水域の水質保全に関して、各家庭等から河川への流入水が及ぼす影響を、調査検証することで浄化槽の普及を図る環境教育を行う。参加した児童生徒に水質調査についての下敷きを配布する。</p> <p>浄化槽を新たに設置される方を対象に浄化槽の 7 条検査等を推進するパンフレットや、浄化槽の管理者等を対象とした浄化槽の維持管理を推進するパンフレットを作成し、浄化槽管理者・行政・関係団体等に配布する他、イベント等で参加者に配布して浄化槽の普及啓発を図る。</p>
事業実施期間	平成 27. 8
事業実施場所	加古川市立両荘中学校、洲本市立青雲中学校、神戸市北区自治会
事業総額	350,000円
助成金額	109,900円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(一社) 鳥取県浄化槽協会	(公社) 徳島県環境技術センター
代 表 者	会長 早瀬 一美	会長 大坂 利弘
所 在 地	鳥取県鳥取市松並町 2-160 城北ビル 303	徳島県徳島市津田海岸町 2-33
事 業 内 容	<p>中海環境フェアの参加</p> <p>1. 目的 中海の浄化を考える様々なグループの取り組みや成果を市民の皆さんにご覧頂き、中海再生プロジェクトの実施する環境の保全を図る事業に参加し、浄化槽の普及啓発活動を行う。</p> <p>2. 内容 名称 中海環境フェア 主催 NPO法人中海再生プロジェクト 共催 鳥取県・中海テレビ放送 目的 中海の浄化に向け、より多くの市民に浄化槽について関心を持っていただき理解を深めていただく為に実物大の浄化槽のカットモデルと解説パネルを展示し、浄化槽の働きについての説明と、パンフレットを配布する。 内容 各団体による中海の水質浄化を中心とした環境学習などの展示</p>	<p>「環境学習」の開催</p> <p>1. 目的 徳島県では、汚水処理人口普及率 (平成 25 年度末) 全国平均 88.9% に対し 54.1% と非常に低くなっており、また浄化槽の維持管理に対する関心の低さも長年の課題となっている。 そこで、法定検査やパンフレット等による広報を通じて浄化槽管理者に浄化槽及びその維持管理の必要性を啓発していくとともに、啓発のマンネリ化を防ぎ、かつ別のアプローチで浄化槽管理者に呼びかけるため、未来の浄化槽管理者である子供たち (小学生・中学生) に授業形式で分かりやすく水環境問題及び浄化槽に触れてもらい、同時にその子供たちを通じて親世代に呼びかけていく手法 (環境学習) を採っている。 この手法は大変好評で、平成 26 年度には 18 小中学校で延べ 19 クラスの子供たちに環境学習を行った。徳島県及び学校からの協力も得て共催という形で多くの人間が関わって開催しており、波及効果も年々大きくなっている。 27 年度も引き続き環境学習を実施し、子供たち及び関係者たちに浄化槽の適正な維持管理を呼びかけていきたい。</p> <p>2. 内容 当法人の職員 (環境学習インストラクター) が学校へ出向き、当該学校の教師の方の協力を得て、当法人作成の環境学習プログラムを基本に、 I) 汚水処理施設のしくみや、生活排水が河川等の汚濁の原因であることについて講義。 II) 水質の汚濁や浄化の仕組みについて様々な理科実験を通じて学習する。</p>
事業実施期間	平成 27. 8	平成 27. 6～ 28. 3
事業実施場所	米子食品会館	徳島県内
事業総額	204, 263円	432, 037円
助成金額	102, 131円	125, 600円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(公社) 愛媛県浄化槽協会	(一社) 高知県浄化槽協会
代 表 者	会長 寺井 政博	会長 川崎 義弘
所 在 地	愛媛県松山市辻町 2-31	高知県高知市大原町 87-8 (株) 高知県設備会館内
事 業 内 容	<p>環境学習に使用する小冊子の印刷・製本</p> <p>1. 目的 次世代を担う子どもたち(小・中学生等)を対象に、一般家庭で使われた水がどのように川に流され、自然に返るか等、水環境に関する知識や水の大切さを教材等を使い、実際に体験し理解してもらうことを目的として、平成25年度より環境学習を実施している。各授業は①座学講座に、②体験型学習(実験・観察等)を組み合わせ実施しており、平成27年度の環境学習(座学講座)にて使用する小冊子を印刷・製本する。(授業で使用した小冊子は児童に配布)。</p> <p>2. 小冊子の内容 くらしと水の関わり、川の今昔、水の大循環等の説明を行い、結果として水を大切にするために私たちが出来ることは何かを考えていく。</p> <p>①くらしの中での水の使われ方 学校、家庭等生活の中で、水はどの様に使われているか、また、私たちのくらしと水との関わりを知る。</p> <p>②昔と今の川について 使った水が汚れていること、またその水が川や海へと流れていくことを知る。 川の今昔から、自浄作用の仕組みを知り、現在の川の汚濁の主原因である生活排水について考える。</p> <p>③みんなが出来ること 生活排水をどのようにして自然に返してあげるのがよいかを考える。また、その実現のために私たちに何が出来るのかを考える。</p> <p>④水の大循環について 水の大循環から、学校や家庭等生活の中で使う水が、どのように姿や形を変えて最終的にどこへ行きつくのかを知る。 なぜ私たちは使った水をきれいにしなければならないのかを知る。</p> <p>3. 印刷・製本数 平成26年度実績 28校と2イベントで実施(対象児童:865名)。 →教職員への配布数も考慮して1,000冊とする。</p>	<p>「鏡川こども祭り」への参加に伴う浄化槽の普及啓発</p> <p>1. 目的 主催「鏡川こども祭り実行委員会」、主催「鏡川漁業協同組合」「鏡川環境保全の会」が開催するイベントに浄化槽普及コーナーを出展し、浄化槽と水の大切さ等について普及啓発する。(平成25年度来場実績:2,000人超)</p> <p>2. 内容 出展内容 ・浄化槽のミニチュアモデルの展示 ・浄化槽啓発パネルの展示 ・浄化槽普及啓発用パンフレット、チラシの配布 ・生活排水に関するクイズの実施(クイズ解答者への景品) ・簡易水質試験 透視度・pH・COD</p>
事業実施期間	平成 27. 4. 1~28. 3. 31	平成 27. 9. 27
事業実施場所	愛媛県内	高知市鏡川町~縄手町 鏡川トリム公園
事業総額	156,600円	437,481円
助成金額	78,300円	200,000円

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「平成 27 度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	(一財) 福岡県浄化槽協会	(一社) 鹿児島県環境保全協会
代 表 者	理事長 三浦 正吏	会長 池畑 憲一
所 在 地	福岡県糟屋郡篠栗町大字乙犬 966-2	鹿児島県鹿児島市宇宿 2-9-9
事 業 内 容	<p>浄化槽シンポジウム福岡 2015 の開催</p> <p>事業内容 県民の環境意識の向上、地方自治体の財政の逼迫、迎えている少子高齢化等の社会状況の変化の中、それぞれの市町村に相応しい生活排水処理計画を構築するための一助とすべく、議会、行政及び浄化槽関係者等を対象にシンポジウムを開催するもの。</p>	<p>合併処理浄化槽転換促進のための啓発活動</p> <p>事業内容 県内の単独処理浄化槽を設置している全設置家庭に対し、合併処理浄化槽への転換推進のリーフレットを配布し、既設単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布先：鹿児島県内の下水道等集合処理区域以外の単独処理浄化槽設置の全家庭 ・配布依頼先：協会会員の浄化槽保守点検業者 (県内全業者が協会会員)
事業実施期間	平成 27. 10. 30	平成 27. 9. 1～ 27. 11. 30
事業実施場所	ホテルレガロ福岡	鹿児島県下全域
事業総額	1, 132, 540円	332, 436円
助成総額	125, 600円	104, 385円